KT師「G1マイルCS2021」本命と見解

今の阪神芝はタフ。
昨年のマイル CS よりもタフな馬場。

先週のエリザベス女王杯もキズナ産駒が 1、2 着。
パワー型の欧州血統が上位独占。

土曜のメインもディープ産駒の末脚型の人気馬が力出せず。

本命はシュネルマイスター。

父が欧州型のキングマン。
現役時代にイギリスのマイル競走の最高峰レースにあたるサセックスステークス。
フランスのマイル競走の最高峰であるジャックルマロワ賞を 3 歳の時に優勝。

同一年でイギリス、フランスの最高峰レースを制覇したのは、
キングマンがはじめて成し遂げた快挙。世界的超一流マイラー。

母父はサドラーズウェルズ系。
先週のエリザベス女王杯。先日の菊花賞ともに母父サドラーズウェルズ系の馬が連対。
タフな阪神芝でキーとなっている系統。

母系も日本で抜群の実績を残す Suleika 牝系。

ブエナビスタ、アドマイヤジャパンを出したビワハイジ。
マンハッタンカフェ。サラキア、サリオスの母サロミアはいずれも牝系は Suleika。

スケールはもちろん、中距離 G1 を差して勝った馬を
多数出しているのも今の馬場、当レース傾向に合います。

対抗はサリオス。

父のハーツクライはサンデー系の G1 種牡馬の中では減速要素に強いタイプ。

母は欧州指向強い種牡馬が詰め込まれていて、こちらも Suleika 牝系。

昨年秋から今年春は、色々と敗因はありますが、
ハーツクライ産駒は 3 歳秋から 4 歳春 G1 は鬼門。

この時期にハーツクライ産駒は 1 度しか G1 を勝てていません。
その生涯リズムの傾向を考えても、まだまだ G1 で上昇を見込める馬。

グランアレグリアも積極的な消し材料までには至らないので、
相手に妙味を求めるのも難しいのですが。

ロータスランドは、非サンデーのイギリス血統で今の馬場傾向にはピッタリ。

ダノンザキッドは、それこそ成長曲線はどうか？と
パワー型のスプリンターにシフトした可能性はありますが、欧州指向は強い母系。